

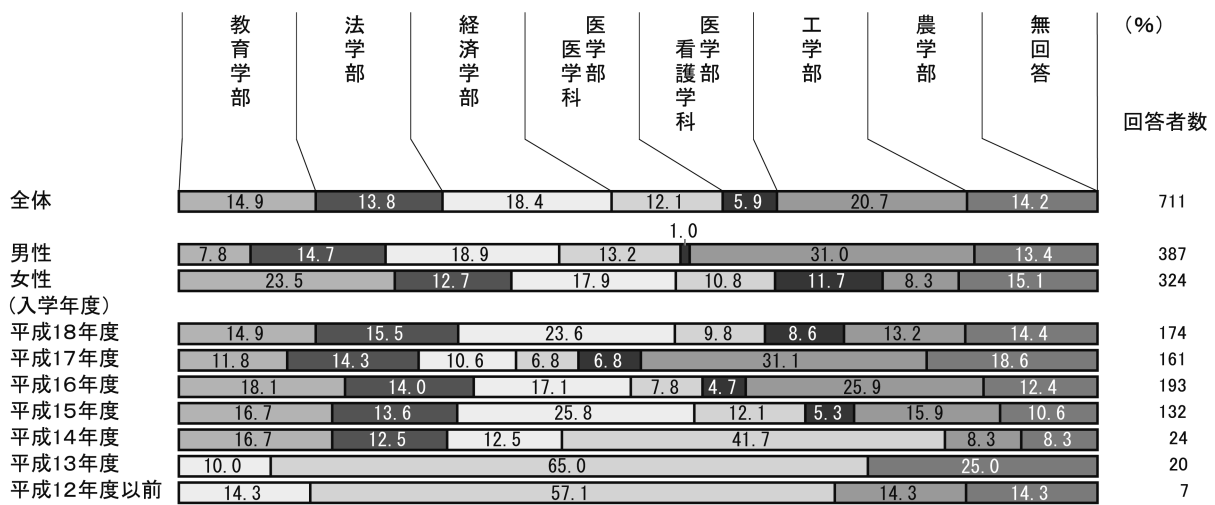
第2章 調査結果の概要について

I. 基本的事項について

1. あなたの属性について

図1は、回答者の所属学部の分布を示したものです。本学の学生総数に対する各学部の学生数の割合は、教育学部 16.4%、法学部 12.9%、経済学部 23.6%、医学部医学科 9.9%、医学部看護学科 4.4%、工学部 20.8%、農学部 12.1%であり（参考図1）、図1に示した回答者のそれぞれの所属学部の割合は、全学の学生総数における割合とほぼ同等であり、偏りのない分布を示しています。

〈図1〉 問1 あなたの所属学部は



香川大学の全学生数に対する各学部生の割合（参考図1）

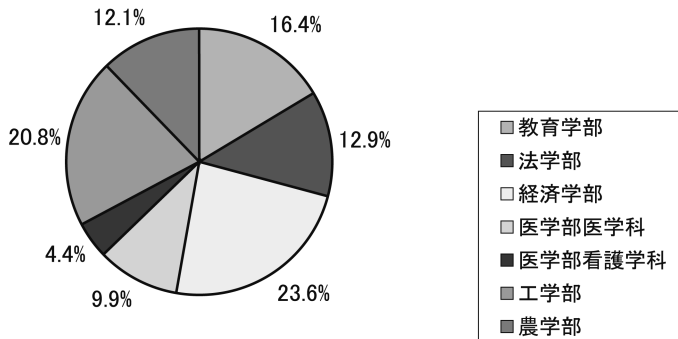


図2は、回答者の入学年度の分布を示したものです。全体の分布を見ると、平成18年度生が24.5%、平成17年度生が22.6%、平成16年度生が27.1%、平成15年度以前の入学生が25.8%で、バランスの取れた分布となっています。

学部別に入学年度の分布を見ると、医学部看護学科で平成18、17年度入学生の割合が61.9%、工学部で平成17、16年度入学生の割合が68.0%とやや多く、医学部医学科では、平成18年度から平成12年度以前まで、回答者の割合がほぼ均等に分布しています。全体としては、極端な偏りがない分布だと考えられます。

〈図2〉 問2 あなたの本学への入学年度は

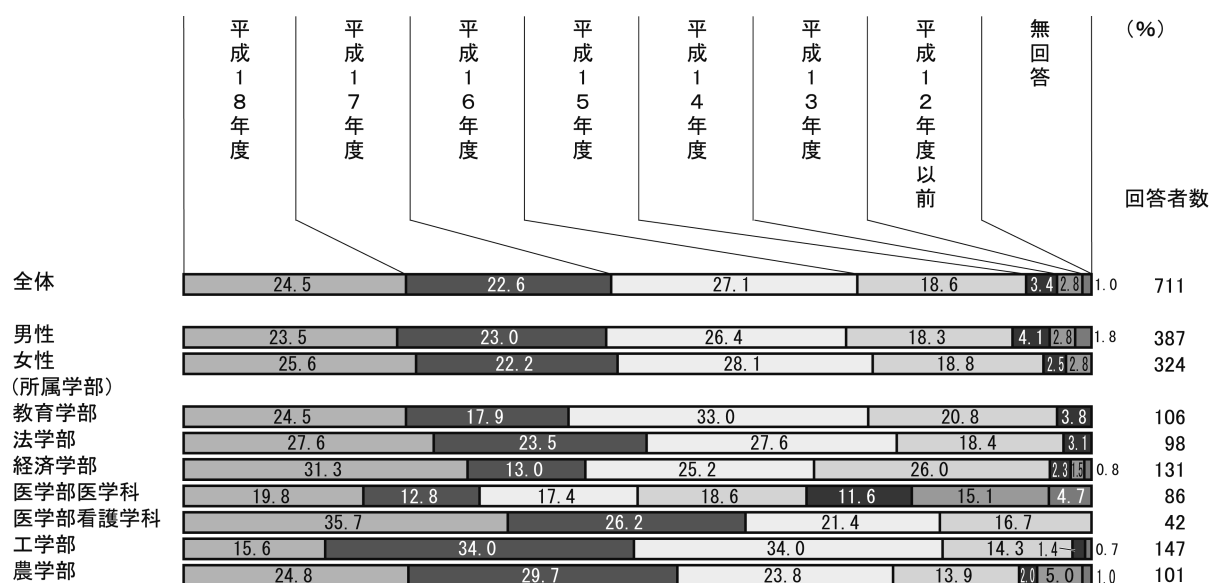
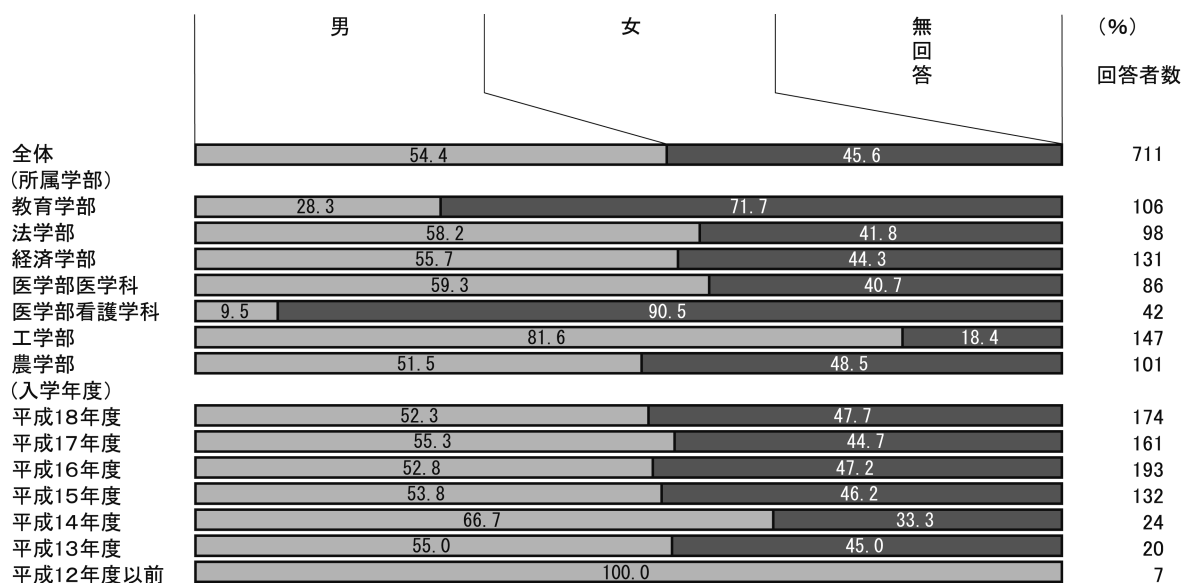
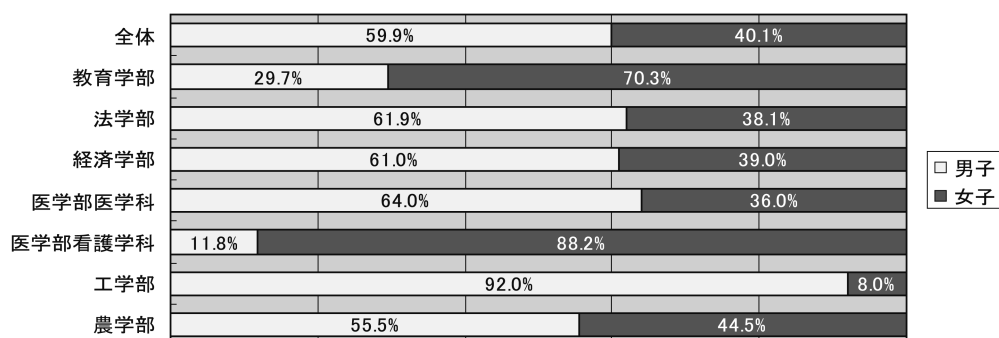


図3は、回答者の性別の分布を示したものです。本学の学生総数に対する男子学生と女子学生の割合は、それぞれ59.9%と40.1%であり、回答者全体の男女比は、学生総数における男女比とほぼ同等であり、偏りのない分布を示しています。学部別の男女比を見ても、各学部の回答者の男女比は、学生数における男女比と大きく変わらず、全体としては、極端な偏りがない分布だと考えられます。(参考図2)

〈図3〉 問3 あなたの性別は



香川大学の男女別学生の割合 (参考図2)

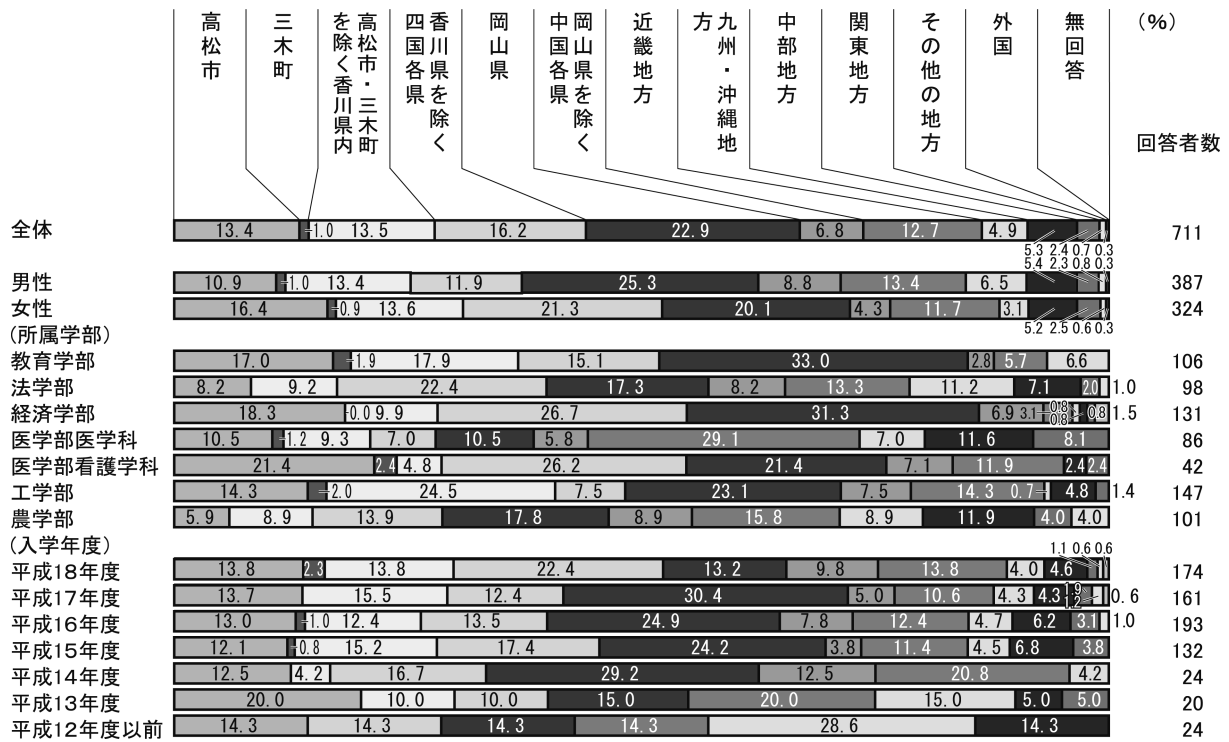


香川県出身者が3割弱。次いで、岡山県出身者が2割強。農学部、法学部は広く全国から、医学部医学科は、近畿地方出身者が多い。

図4は、回答者の出身地を示したものです。全体では、香川県の27.9%が最も多く、次いで、岡山県の22.9%で、両県の出身者が約50%を占めています。

学部別に見ると、香川県出身者は、工学部(40.8%)と教育学部(36.8%)に多く、農学部(14.8%)と法学部(17.4%)は少ないが、農学部と法学部では、広く全国に分散しています。医学部医学科では、近畿地方出身者が多いのも特徴です。

〈図4〉 問4 あなたの出身地はどこですか。



2. あなたの通学方法について

7割近くは高松市内在住。三木町、林町キャンパスに通学する理系学生は、自動二輪（原付を含む）、自動車を使う場合が多く、通学時間もやや長い。

図5は、「どこから通学していますか」という質問に対する回答の分布を示しています。全体では68.6%が高松市と回答し、男女間（男性70.0%、女性67.0%）でも大差はありませんでした。

学部別に見ると、教育学部（70.8%）、法学部（85.7%）、経済学部（80.9%）、工学部（78.2%）では高松市との回答が多く、医学部医学科（62.8%）、医学部看護学科（40.5%）、農学部（31.7%）では、三木町との回答が多く見られます。三木町からの通学者は、学年が上になるほど多くなります。また、教育学部と経済学部では、岡山県と回答したものが、それぞれ16.0%と11.5%であることも特徴です。

〈図5〉 問5 あなたはどこから通学していますか。

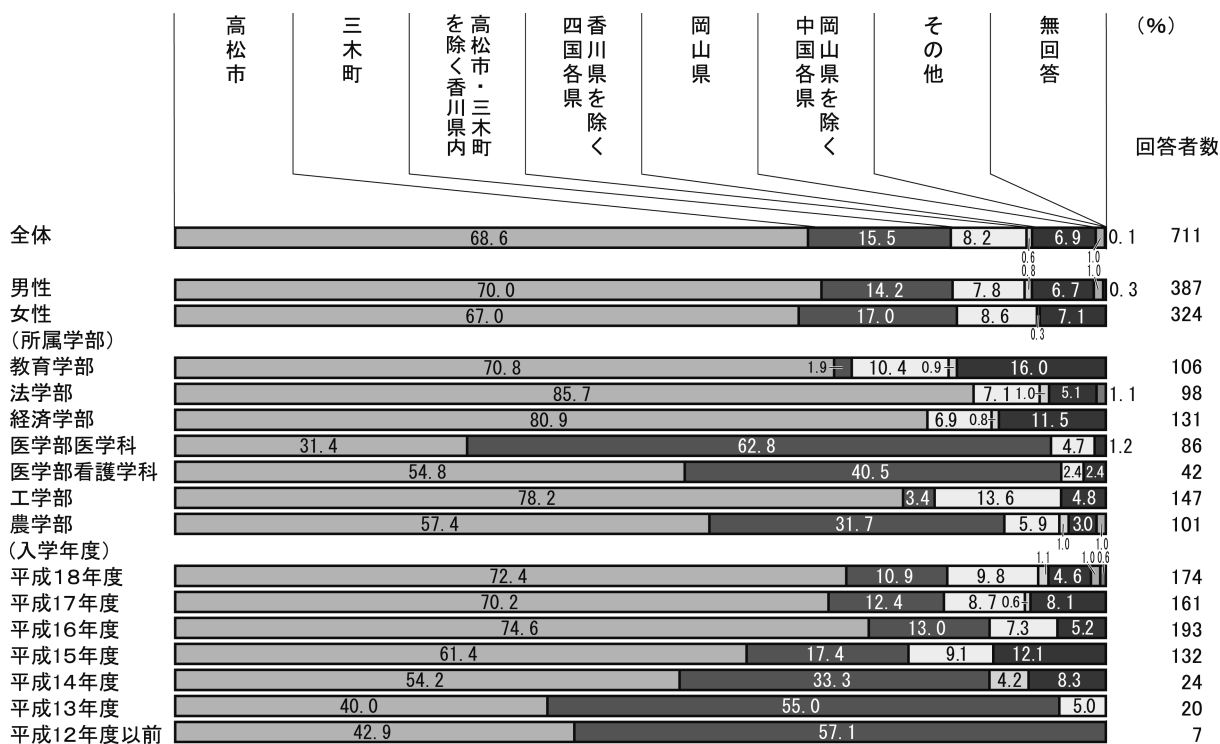


図6は、回答者が通うキャンパスの分布を示しています。教養課程、専門課程ともに、幸町キャンパスで過ごす教育学部、法学部、経済学部の学生に対して、医学部、工学部、農学部の学生は、教養課程は幸町キャンパスで、専門課程は、三木町、林町キャンパスに主に通学していることを示しています。この結果は、図5に見られたように、医学部、農学部の学生は、学年が上になると、三木町から通学すると回答する割合が増加する傾向と一致しています。

〈図6〉 問6（1）あなたは主としてどちらのキャンパスに通学していますか。

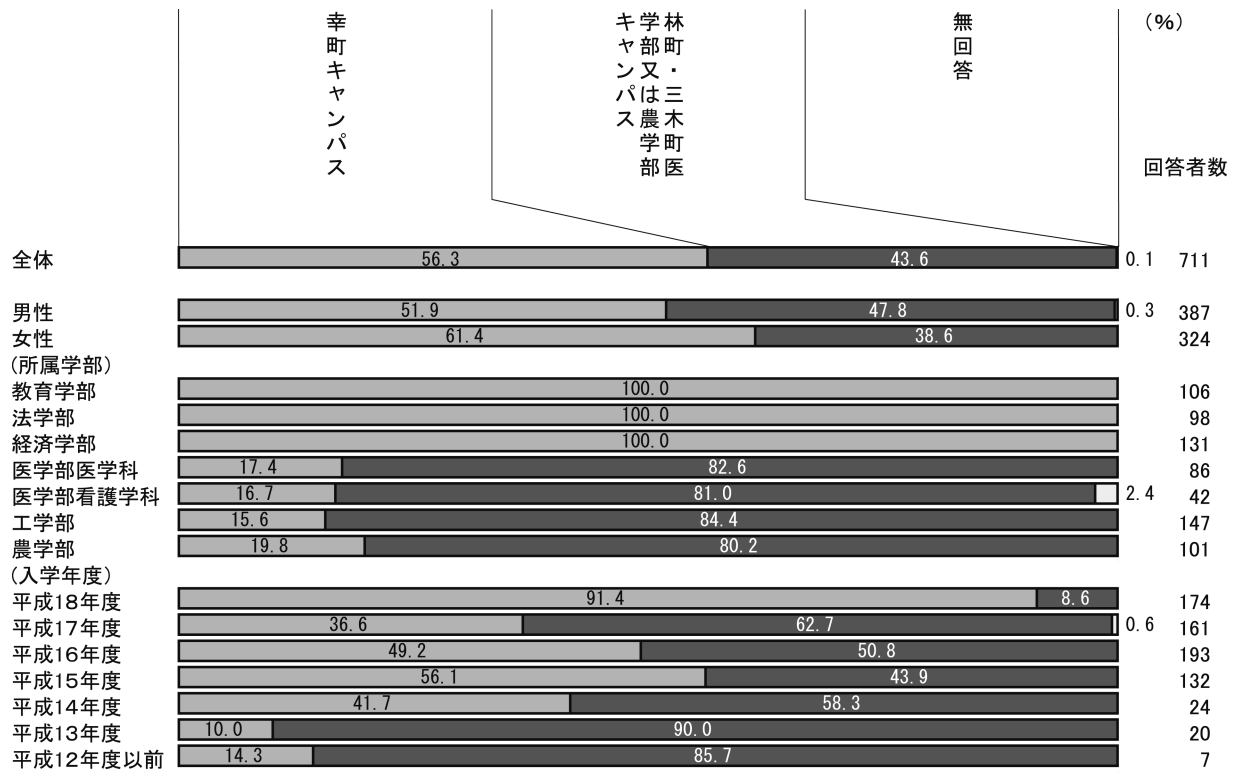
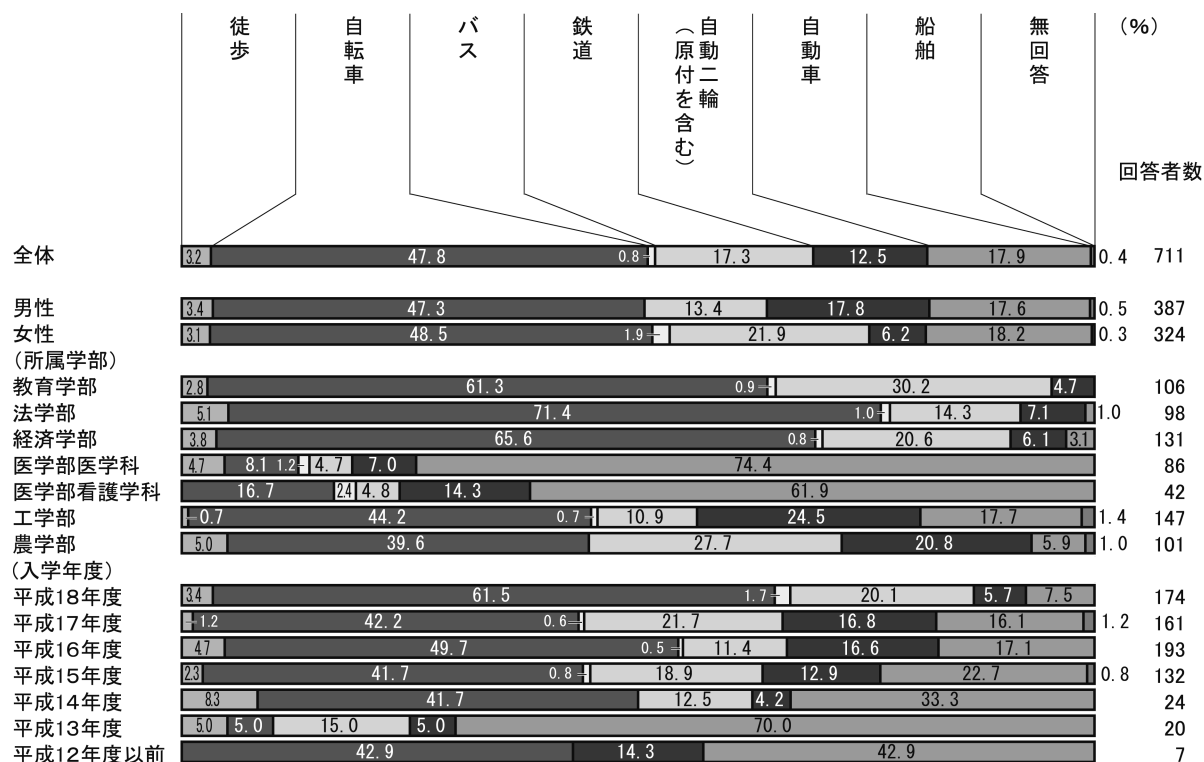


図7は、通学方法に関する回答を示しています。幸町キャンパスで過ごす教育学部、法学部、経済学部の学生は、自転車で通学する学生の割合が高いようです。一方、工学部と農学部の学生は、自転車に加えて、自動二輪（原付を含む）を通学に使う学生が多く、医学部の学生は、自動車による通学者が多いのが特徴です。

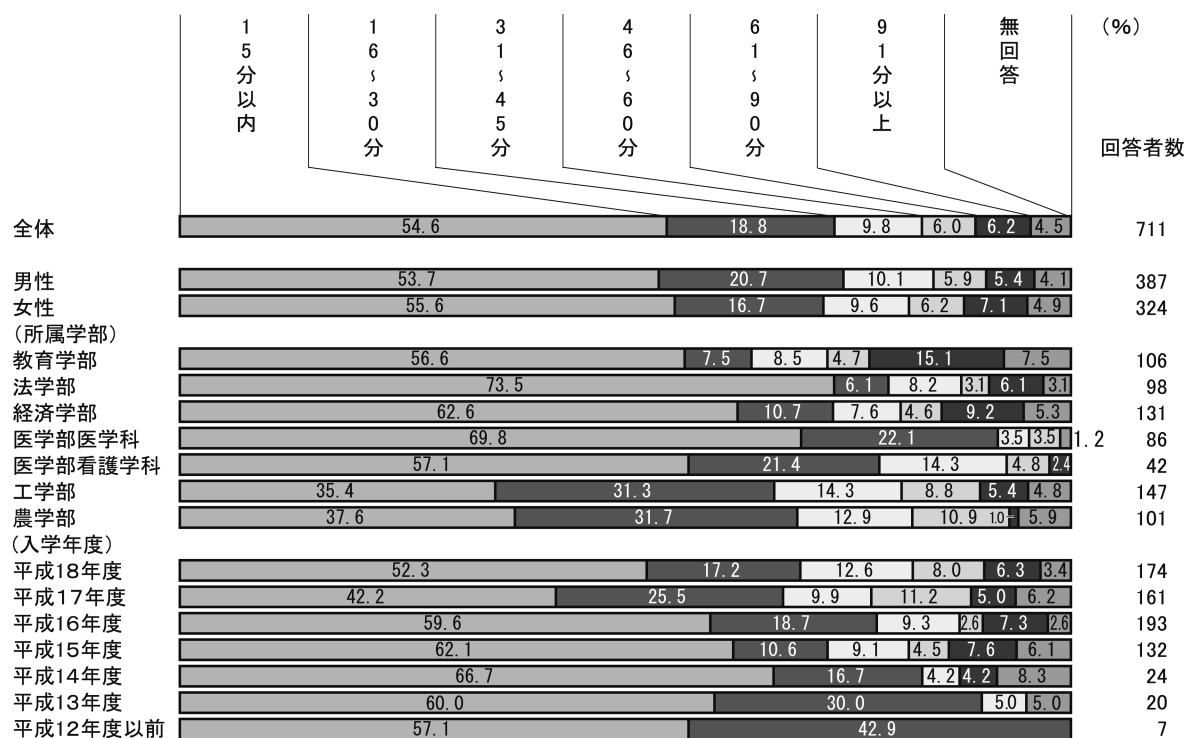
〈図7〉 問6（2）あなたは主としてどのような方法で通学していますか。

〔併用者は、主なものを一つだけ選んでください。〕



通学時間は、図8に示されているように、全体では54.6%の学生が15分以内ですが、学部別に見ると、工学部と農学部の学生は、やや通学時間が長い傾向が見られます。通学時間が1時間以上である学生の割合が、教育学部と経済学部でやや多い傾向がありました。これは、図5で示されたように、両学部では、岡山県から通学すると回答した学生の割合が多かったことが影響しているのかもしれない。

〈図8〉 問6（3）あなたが通学に要する所要時間（片道）は



3. 経済状況について

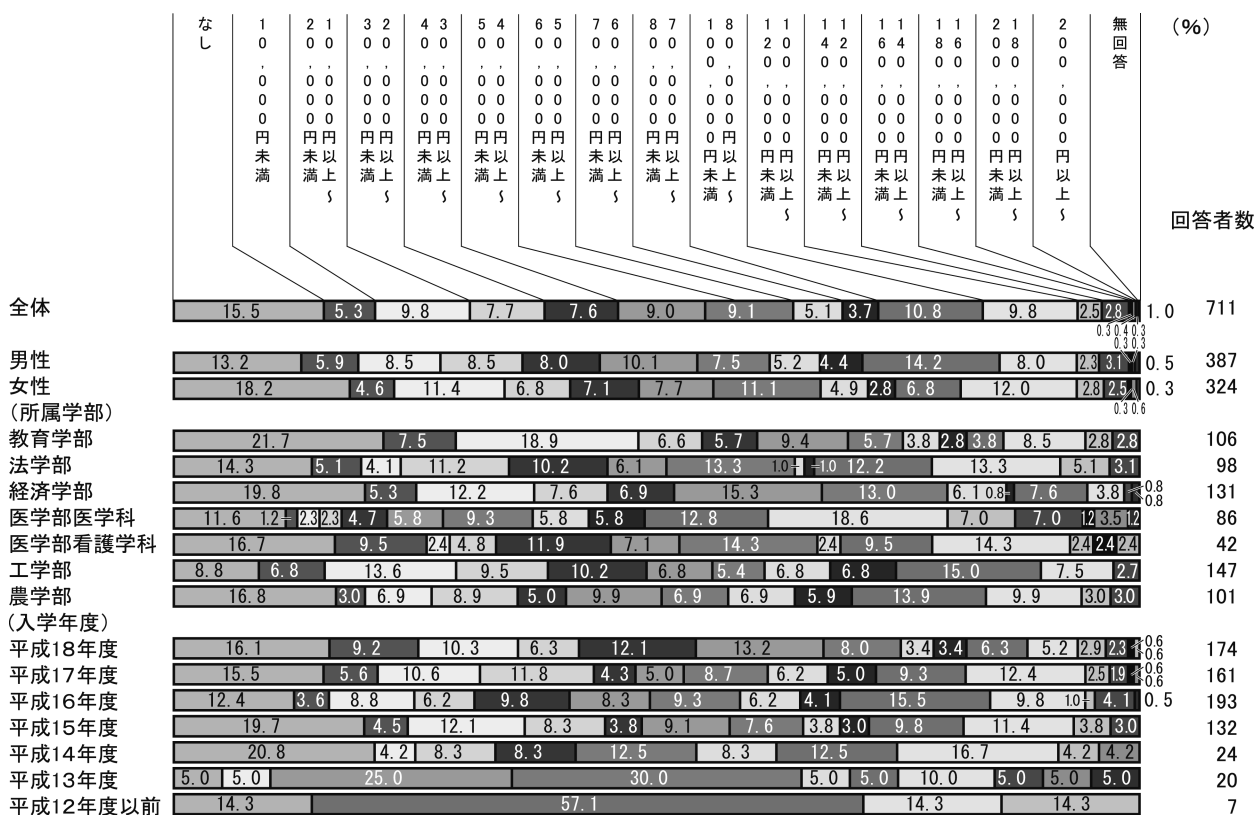
(1) 収入状況

① 家庭からの給付

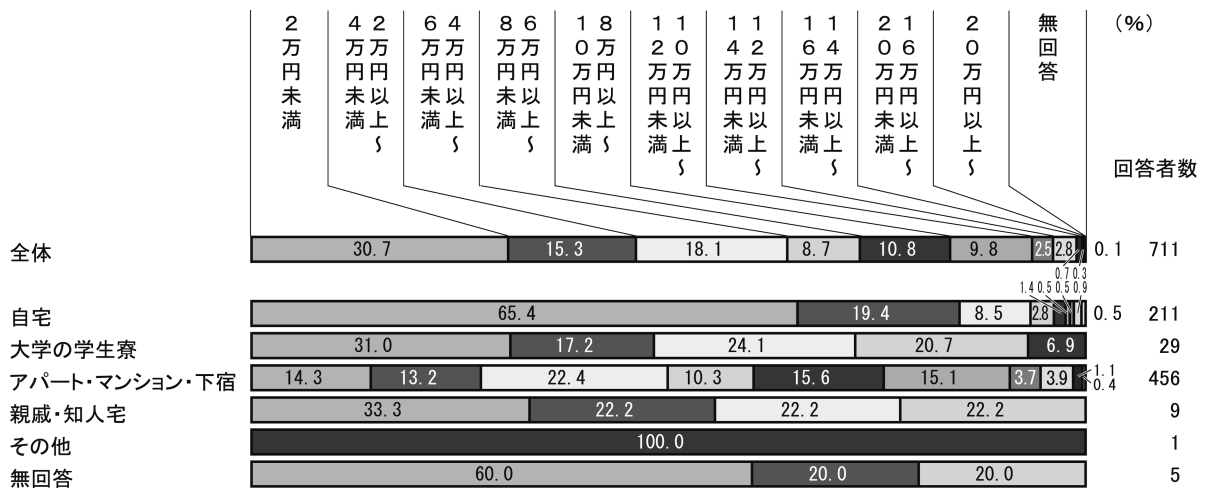
家庭からの給付を受けていない学生は 15.5 %。理系学部と文系学部で差有り。

図9は、家庭からの給付状況を表したものです。全体では、「なし」とする回答が最も多く（15.5 %）、次いで、「100,000円以上～120,000円未満」（10.8 %）となっています。男女差を見ると、「なし」と回答した割合は女性の方が高く、また、女性の場合は、「100,000円以上～120,000円未満」より、「120,000円以上～140,000円未満」と回答した割合の方が高くなっています。学部別に見ると、理系の学部が、比較的高額の給付を家庭から受けているように見受けられます。これを住居形態別に見ると、アパートその他に住む学生とは異なり、自宅に住んでいる学生は、「2万円未満」が65.4 %を占めています。

〈図9〉 問7-1 家庭からの給付



〈図10〉 問7-1 家庭からの給付（住居形態別）

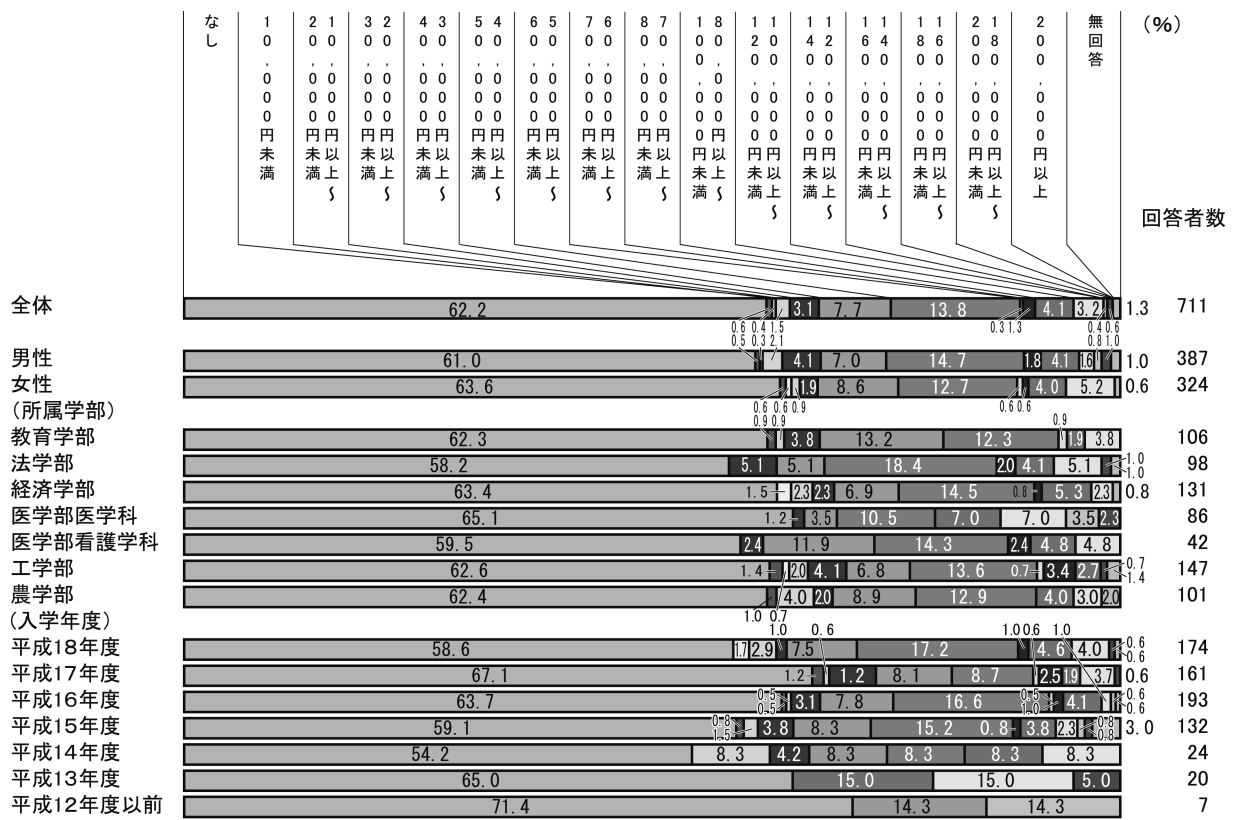


② 奨学金

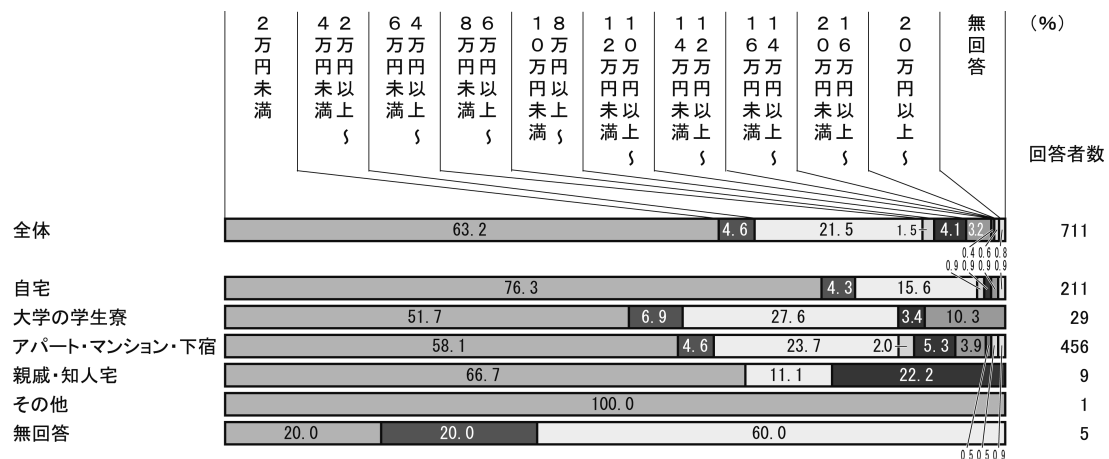
奨学金を受けている学生は4割。

図11は、奨学金の受給額を表したものです。全体では、「なし」とする回答が62.2%で最も多く、次いで、「50,000円以上～60,000円未満」(13.8%)となっており、この傾向は、性別、所属学部が違って同じ傾向を示しています。住居形態別にみると、自宅外から通学する学生で、「40,000円以上～60,000円未満」の奨学金を受けているとする回答が比較的多く見られます。

〈図11〉 問7-2 奨学金



〈図12〉 問7-2 奨学金（住居形態別）



③ アルバイト

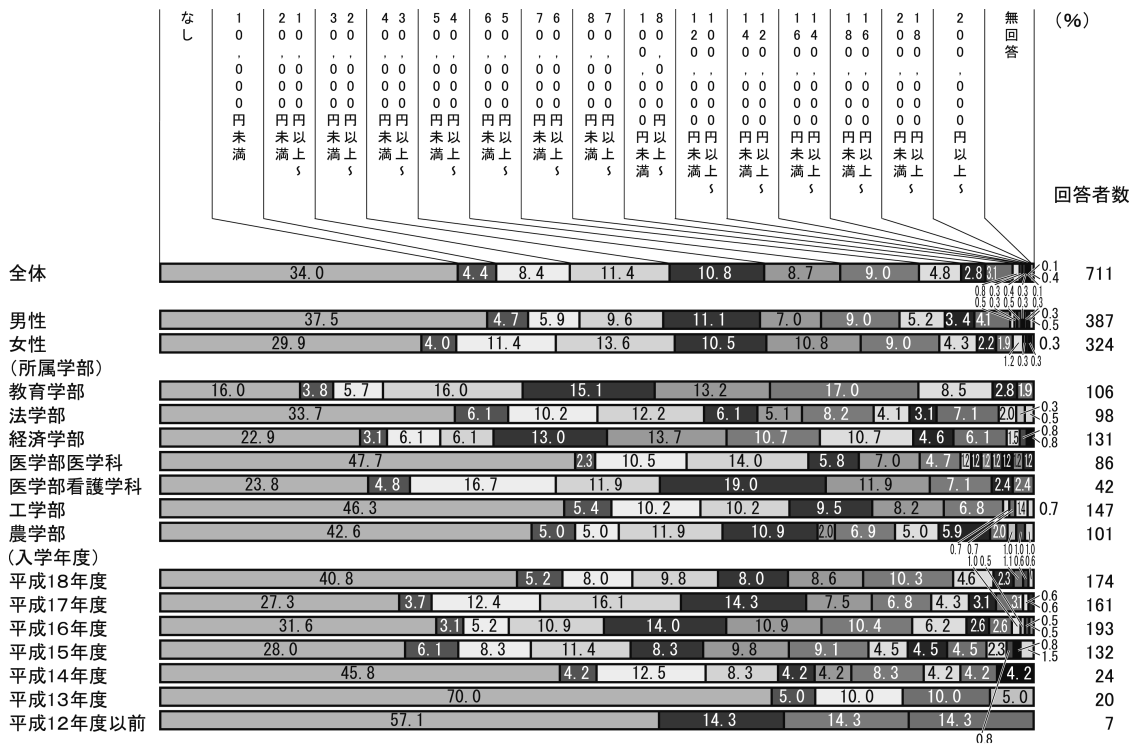
アルバイトをしている学生は6.5割。

図13は、アルバイトによる一か月の収入を表したものです。全体では、「なし」と回答したものが最も多く、この傾向は、男子学生により顕著なようです。

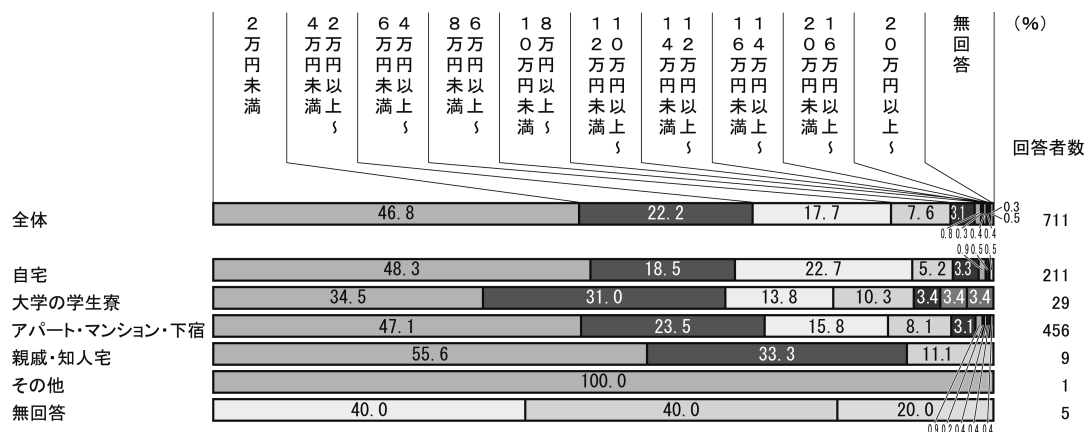
学部別に見ると、理系の学生で「なし」と回答したものの割合が高い傾向が認められますが、医学部看護学科では、「なし」と回答したものが23.8%で、文系の学生の中でも法学部の学生は、33.7%が「なし」と回答しています。

住居形態別で見ると、親戚・知人宅に住んでいる学生に「なし」とする回答がやや高くなる傾向が見られます。

〈図13〉 問7-3 アルバイト



〈図14〉 問7-3 アルバイト（住居形態別）

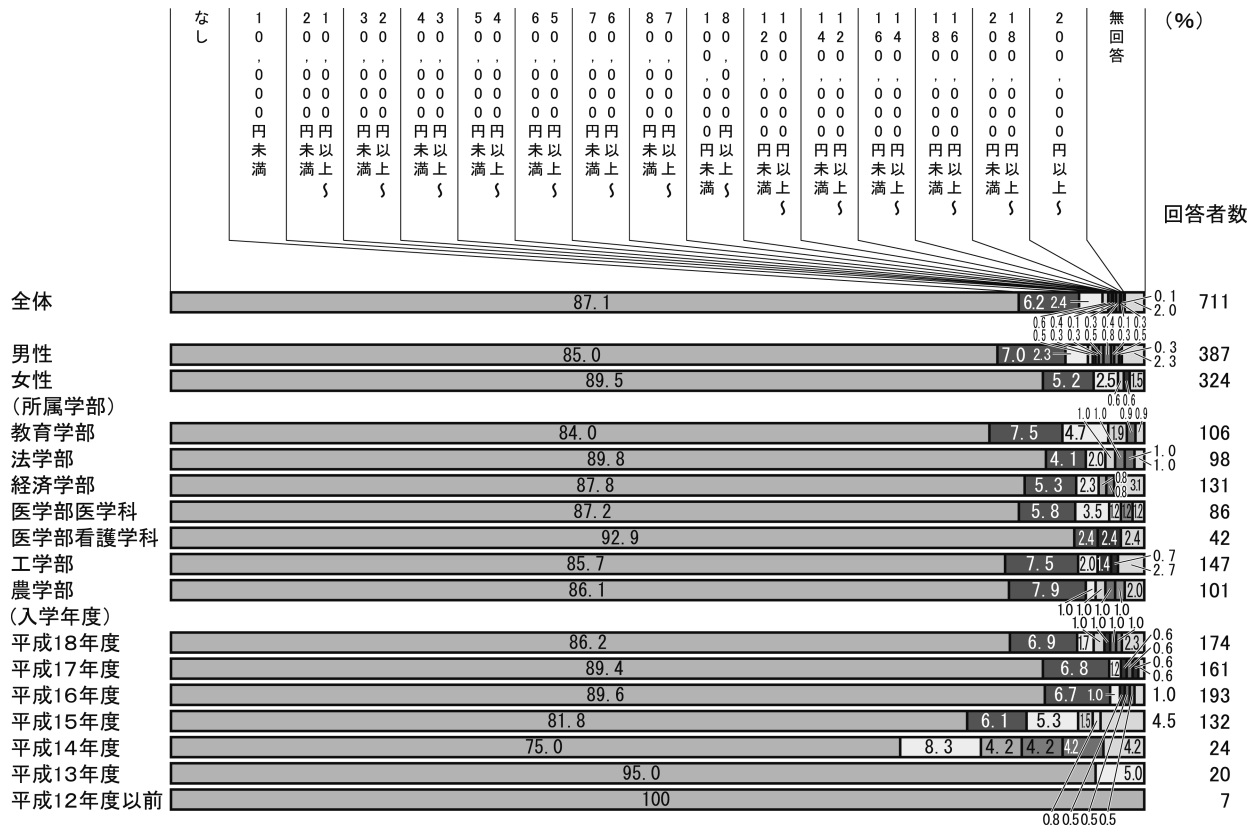


④ その他の収入

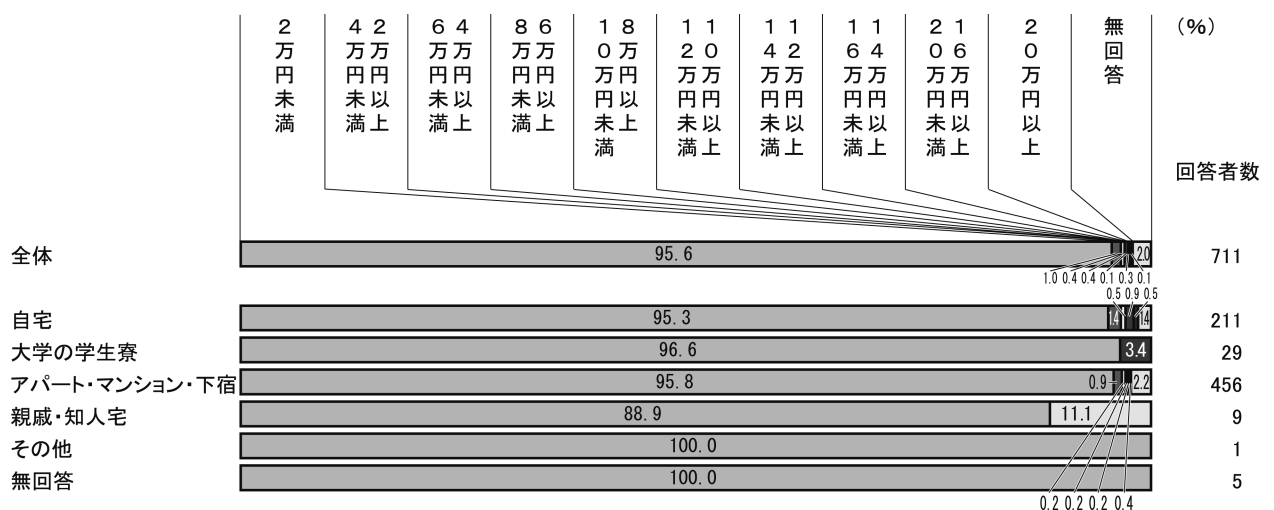
その他の収入は「なし」が大部分。

その他の収入は、「なし」と回答したものが全体の87.1%であり、学部間、住居形態別でも大きな差はなく、一般的な学生の収入は、家庭からの給付、奨学金、アルバイトからなると思われます。

〈図15〉 問7-4 その他の収入



〈図16〉 問7-4 その他の収入（住居形態別）



(2) 支出状況

① 食費

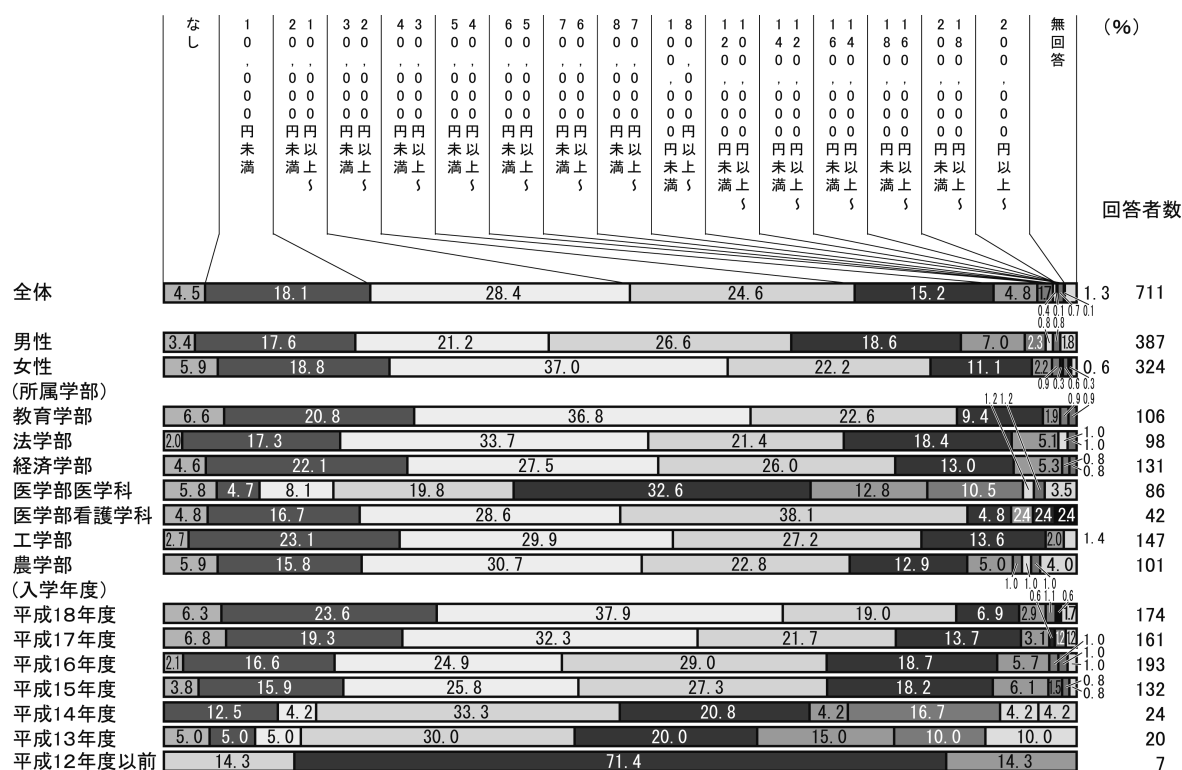
食費は「1万円以上～2万円未満」が最多。
医学部医学科の学生はやや多い傾向。

図19は、支出における食費の割合を示しています。全体では、「10,000円以上～20,000円未満」が28.4%で最も多く、次いで、「20,000円以上～30,000円未満」が24.6%となっています。

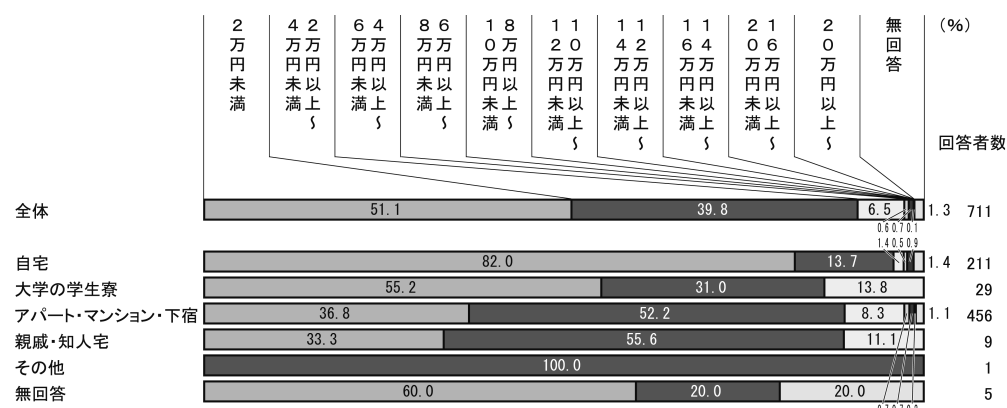
学部別に見ても、医学部医学科では、「30,000円以上～40,000円未満」という回答が32.6%で最も多い以外は、大きな差は見られません。

また、住居形態別で見ると、自宅生は、2万円未満とする回答の割合が突出して高くなっています。

〈図19〉 問7-6 食費



〈図20〉 問7-6 食費（住居形態別）

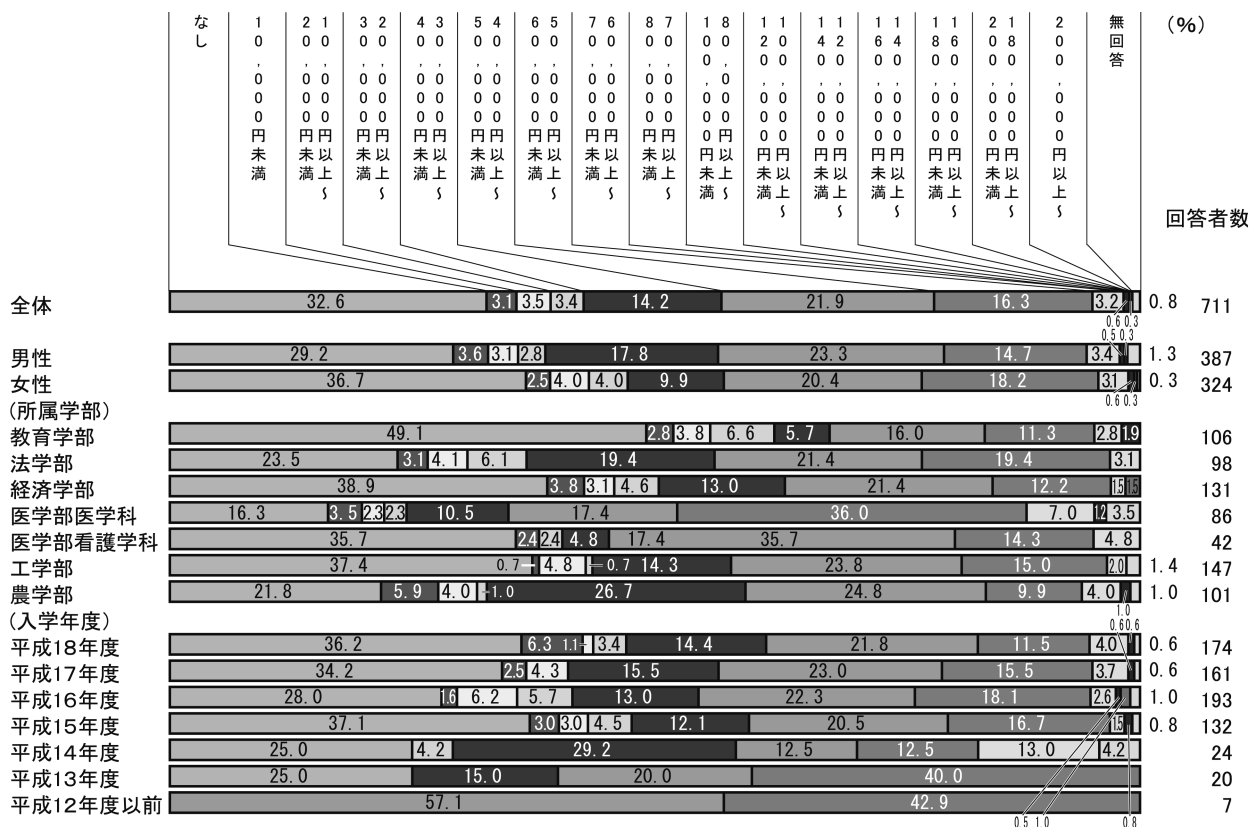


② 住居費

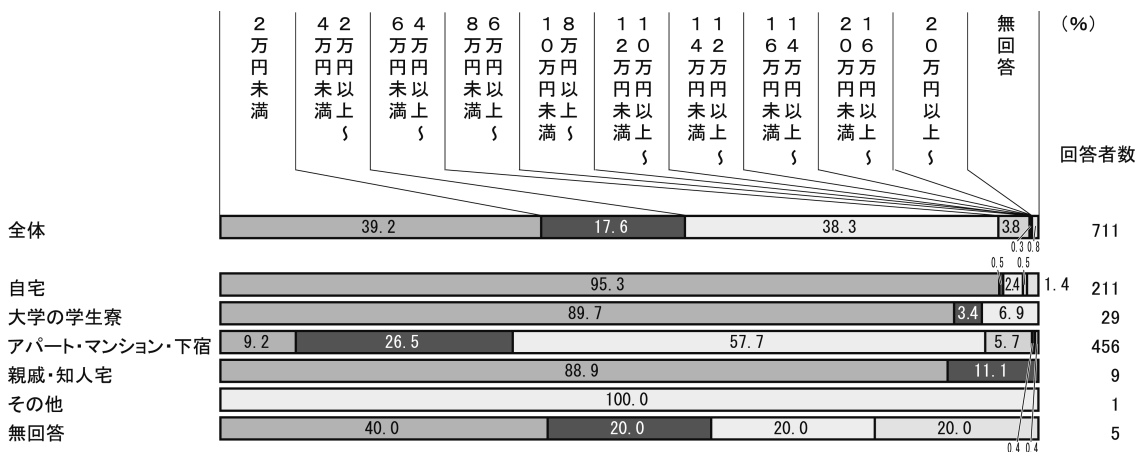
住居費は「なし」が最多。次いで、「4万円以上～5万円未満」。
 医学部医学科の学生はやや多い傾向。

図 21 は、支出における住居費の割合を示しています。全体では、「なし」という回答が 32.6 %で最も多く、次いで、「40,000 円以上～50,000 円未満」が 21.9 %となっています。学部別に見ると、医学部医学科の学生は住居費がやや高い傾向が見られます。

〈図 21〉 問 7-7 住居費



〈図 22〉 問 7-7 住居費（住居形態別）

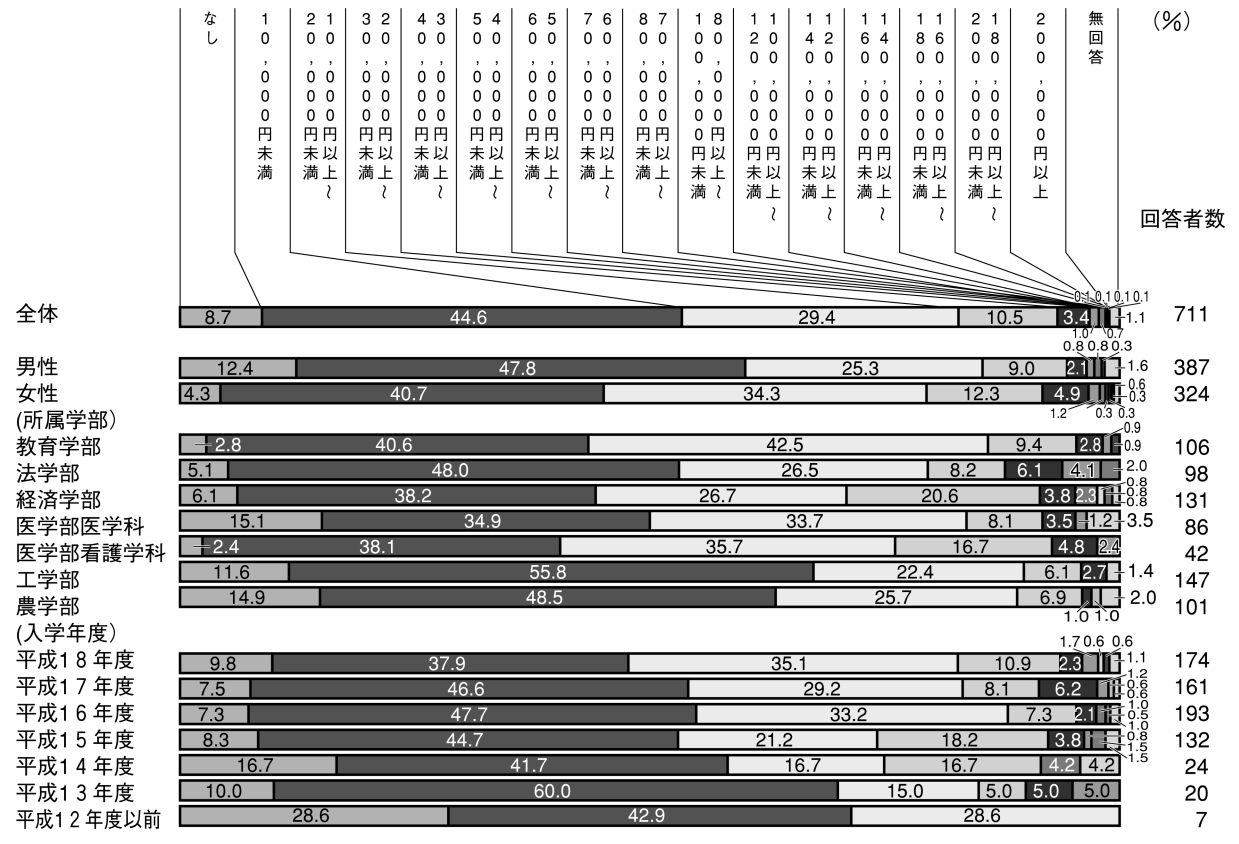


③ 被服費

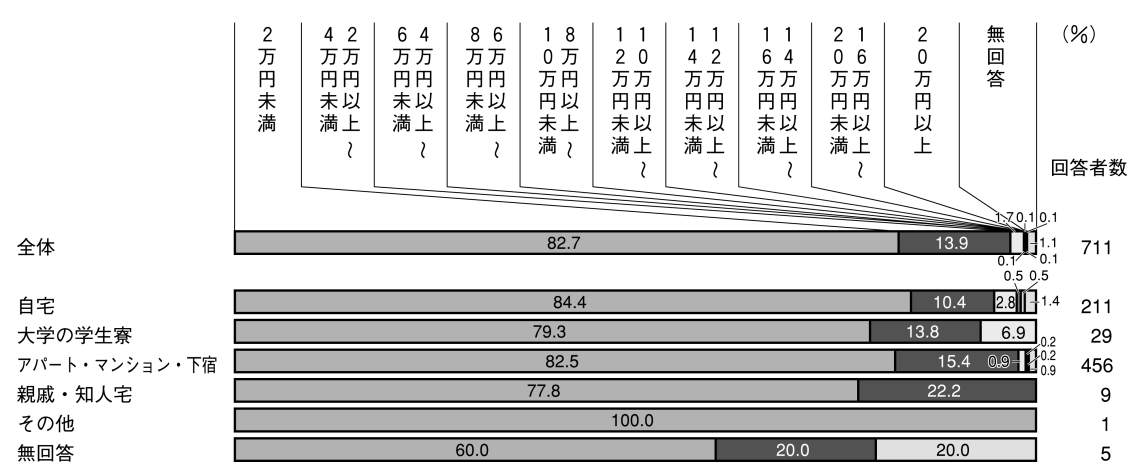
被服費は「1万円未満」が最多。学部間で若干の差有り。

図 23 は、支出における被服費の割合を示しています。全体では、「10,000 円未満」という回答が 44.6% で最も多く、女性の方がやや被服費が高いようです。学部別に大差はありませんが、教育学部では、「10,000 円以上～20,000 円未満」との回答が他学部よりやや多く、工学部で「10,000 円未満」という回答が、他学部よりやや多い傾向が見られます。

〈図 23〉 問 7-8 被服費



〈図 24〉 問 7-8 被服費 (住居形態別)

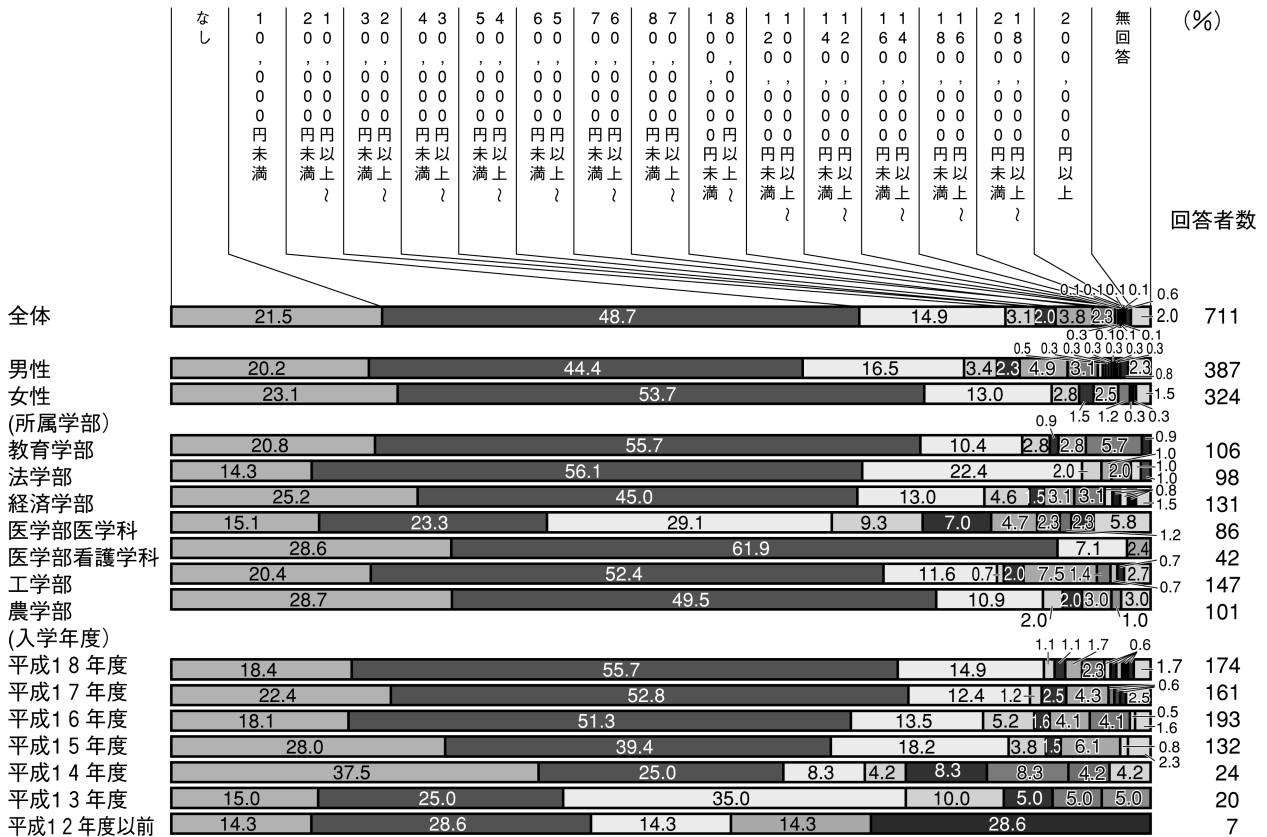


④ 学業費

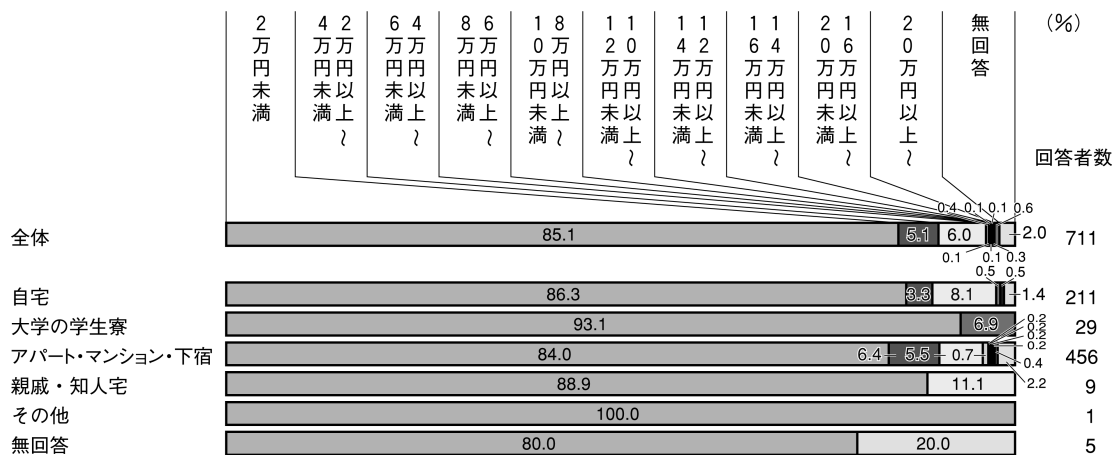
学業費は「1万円未満」が最多。医学部医学科の学生は高い傾向。

図 25 は、支出における学業費の割合を示しています。全体では、「10,000 円未満」という回答が 48.7%で最も多いようです。学部別には大差はありませんが、医学部医学科では、他学部より高額支出の割合が高い傾向にあります。

〈図 25〉 問 7－9 学業費



〈図 26〉 問 7－9 学業費（住居形態別）



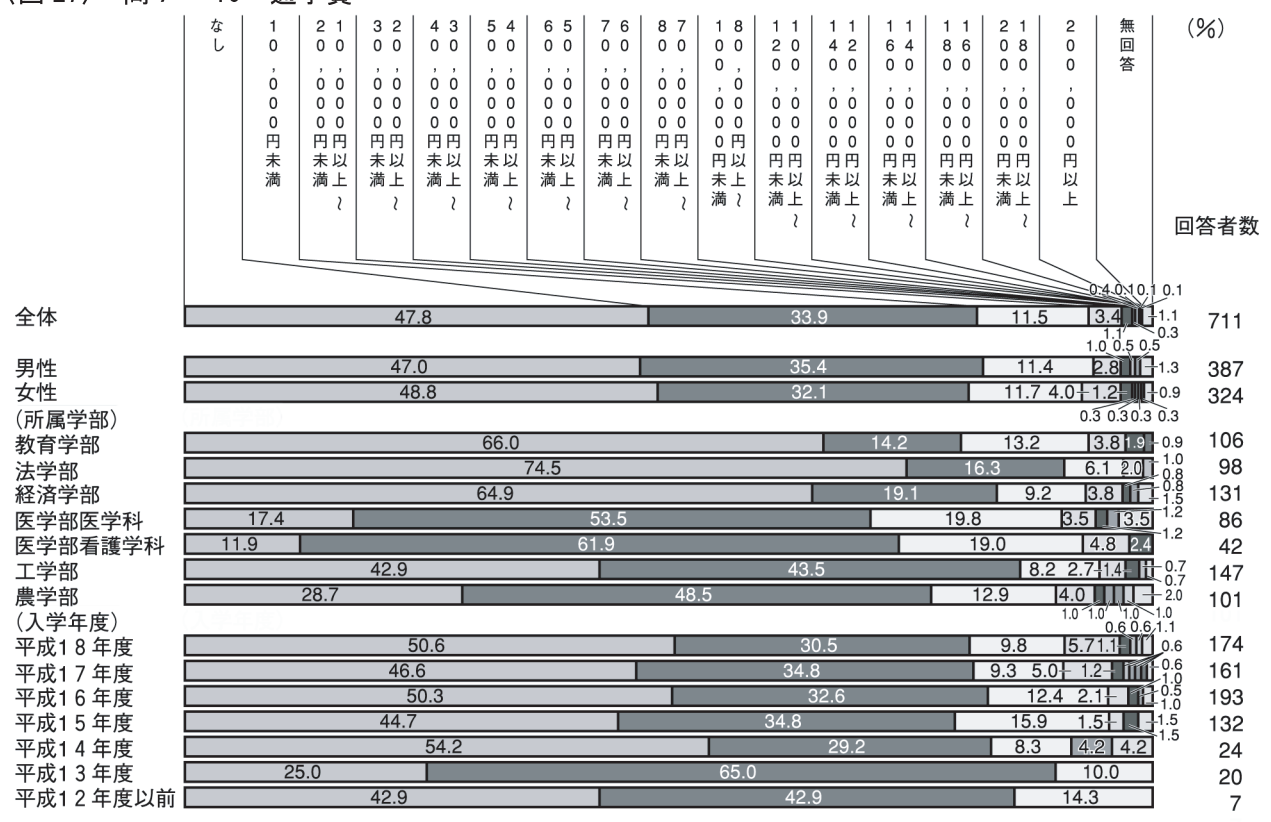
⑤ 通学費

通学費は「なし」が最多。理系学部の学生は、「1万円未満」が「なし」を上回る。

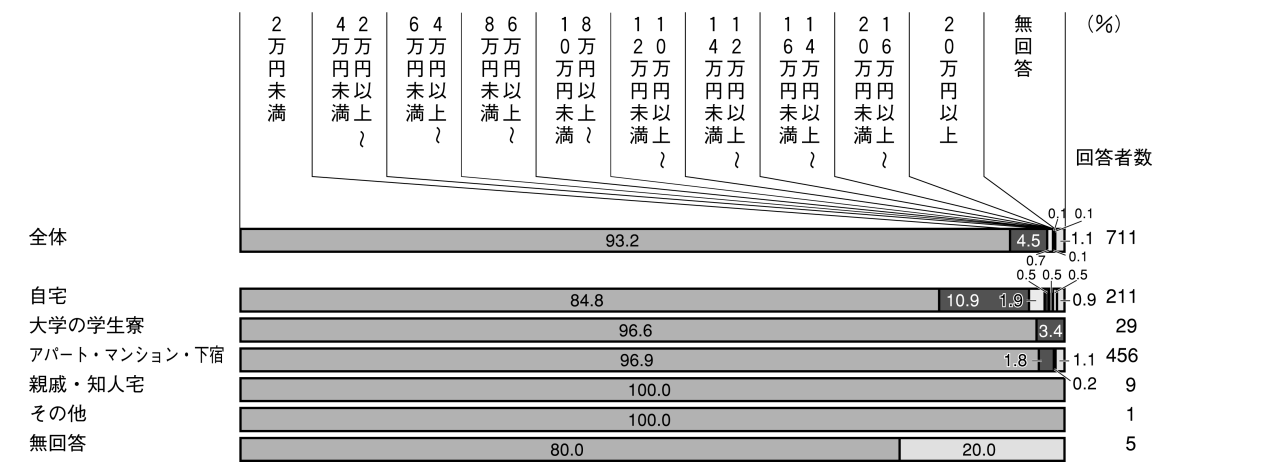
図 27 は、支出における通学費の割合を示しています。全体では、「なし」という回答が 47.8 % で最も多いようです。

学部別に見ると、三木町キャンパス、林町キャンパスの理系学部の学部生は、「10,000 円未満」と回答した学生が、「なし」と回答した学生を上回っています。特に、三木町キャンパスの医学部医学科、医学部看護学科、農学部の回答に、この傾向は強く見られます。

〈図 27〉 問 7 - 10 通学費



〈図 28〉 問 7 - 10 通学費 (住居形態別)

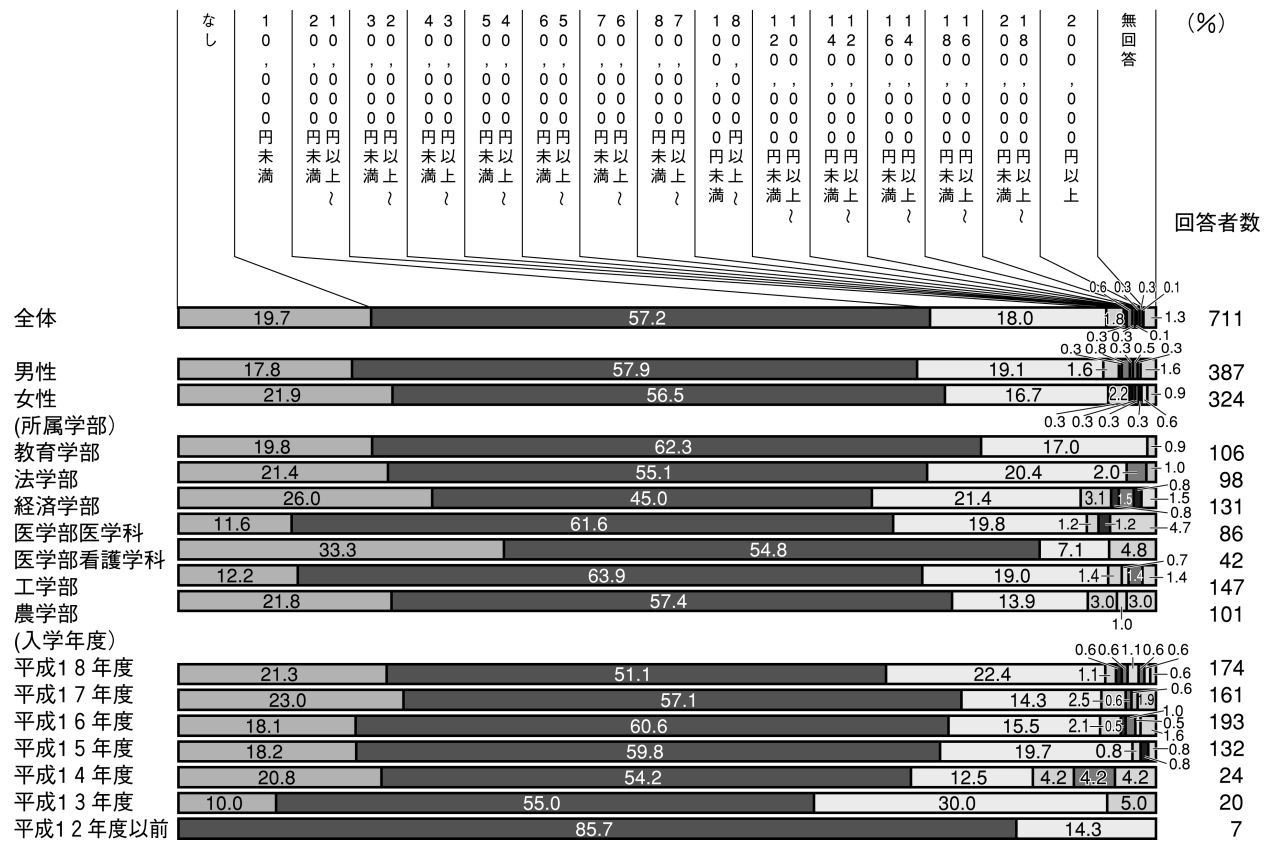


⑥ 通信費（携帯電話代等）

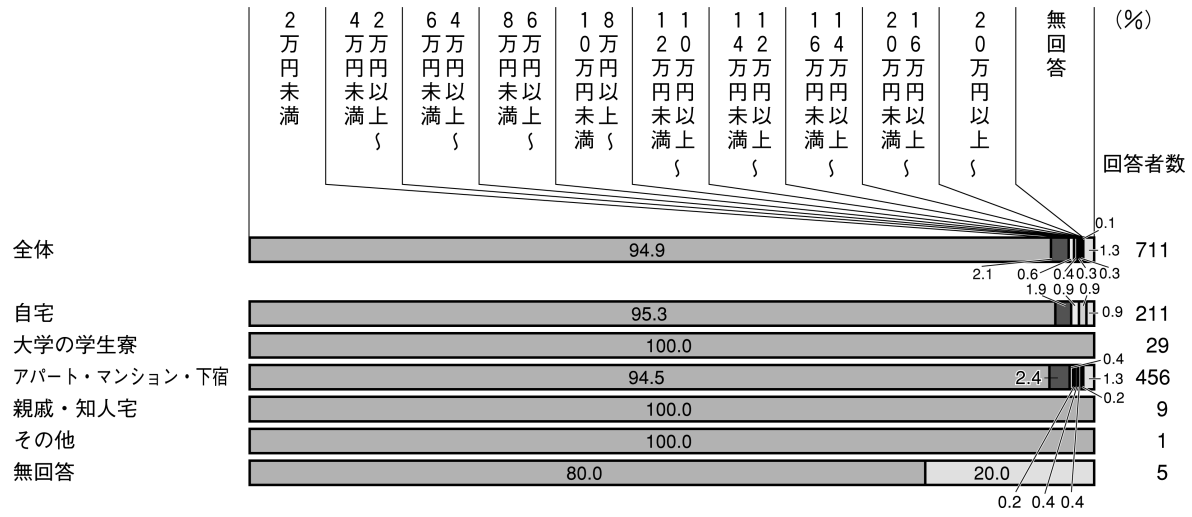
通信費は「1万円未満」が最多。

図 29 は、支出における通信費の割合を示しています。全体では、「10,000 円未満」という回答が 57.2% で最も多いようです。学部間、住居形態別に大差はありませんが、医学部看護学科で「なし」と回答した割合が、33.3% とやや高くなっています。

〈図 29〉 問 7-11 通信費（携帯電話代等）



〈図 30〉 問 7-11 通信費（携帯電話代等）（住居形態別）

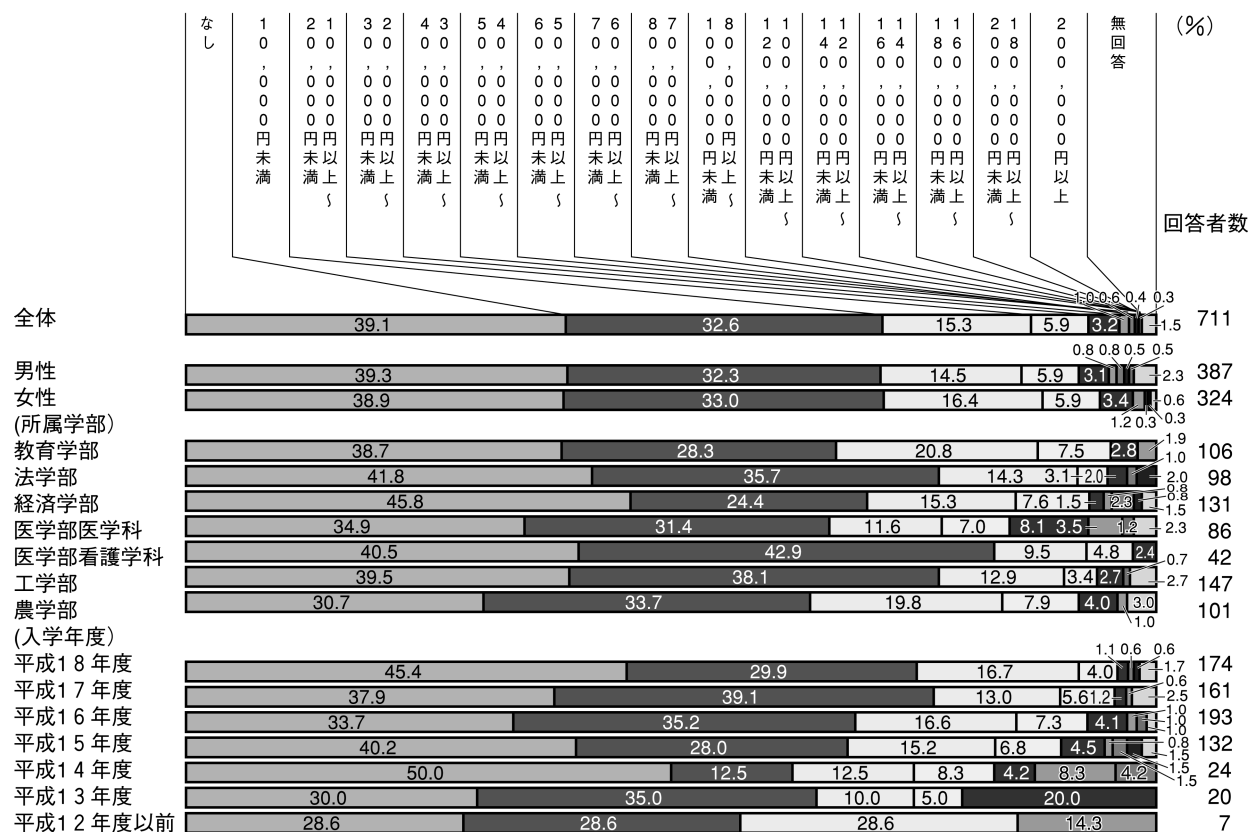


⑦ その他の支出

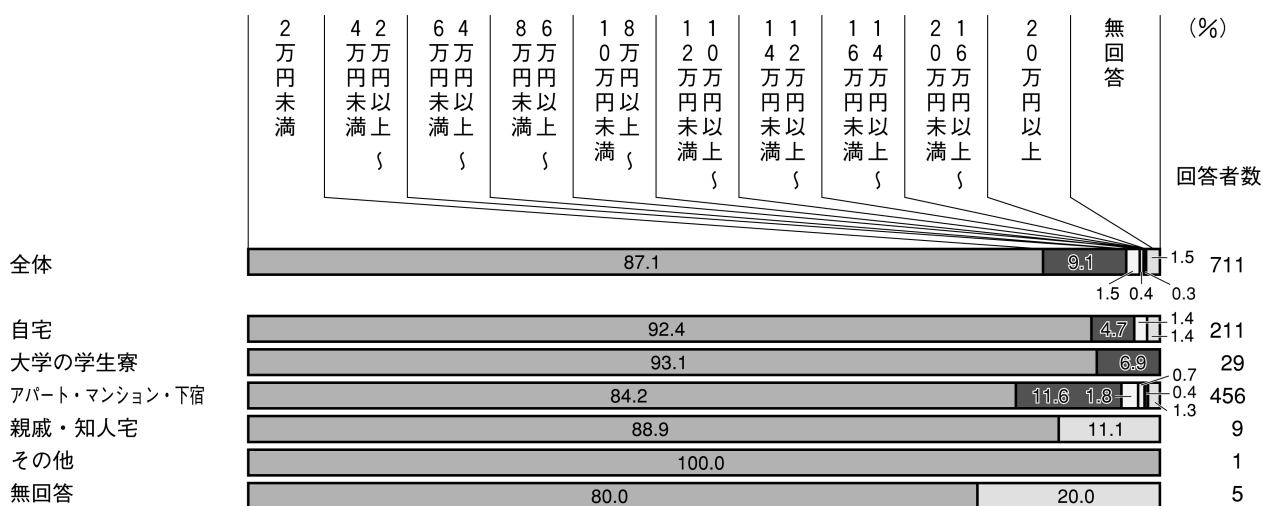
4割の学生はその他の支出なし。

図31は、支出におけるその他の割合を示しています。全体では、「なし」という回答が39.1%で最も多いようです。学部間、住居形態別に大差はありません。

〈図31〉 問7-12 その他の支出



〈図32〉 問7-12 その他の支出（住居形態別）



⑧ 1か月の支出総額

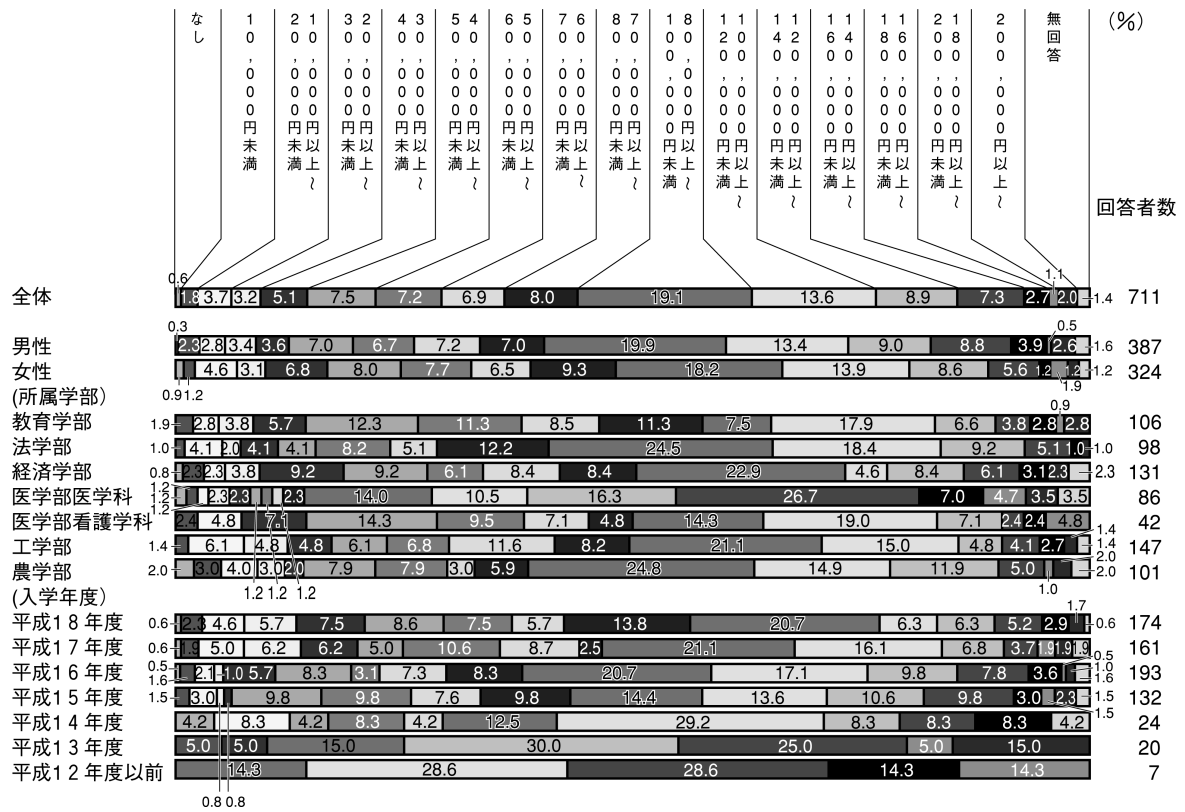
支出総額は、「8万円以上～10万円未満」が最多。
 医学部医学科の学生は高い傾向。

図33は、支出総額を示しています。全体では、「80,000円以上～100,000円未満」が19.1%で最も多く、次いで、「100,000円以上～120,000円未満」が13.6%となっています。

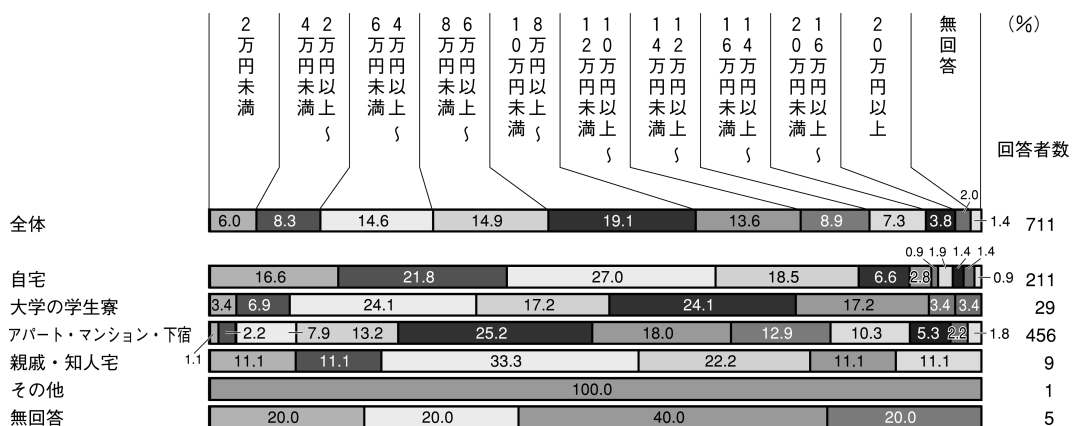
学部別に見ると、医学部医学科の学生は、総支出額が高い傾向が見られますが、他学部間では大きな差は見られません。

また、住居形態別で見ると、自宅生及び親戚・知人宅に住んでいる学生は、支出総額が低くなる傾向が見られます。

〈図33〉 問7-13 1か月の支出総額



〈図34〉 問7-13 1か月の支出総額（住居形態別）

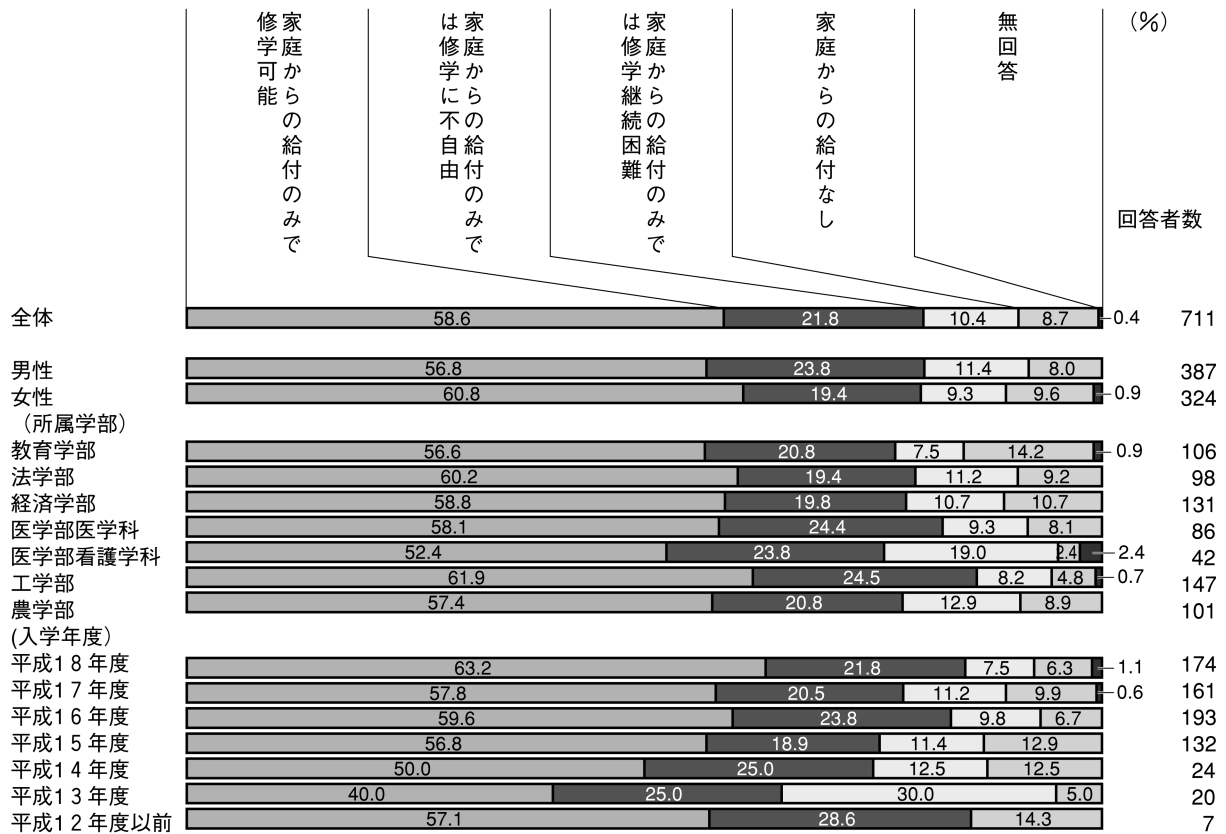


(3) 家庭からの給付と修学との関係

6割近くの学生は、家庭からの給付のみで修学が可能。

図 35 は、家庭からの給付と修学との関係を表しています。全体では、58.6 %の学生が、家庭からの給付のみで修学が可能なようで、男女、学部間でも、ほぼ同様の傾向が見られます。

〈図 35〉 問 8 家庭からの給付と修学との関係は（最近 1 年間の経験から）



(4) お金が足りなくなった場合の対処

5割の学生は窮乏経験なし。

図 36 は、お金が足りなくなった場合の対処方法を表したものです。全体としては、「そのような事態になったことがない」との回答が、50.5%と最も高く、次いで、「親や兄弟に借りる」となっています。学部別では、医学部医学科で、「そのような事態になったことがない」との回答の割合が、やや低い傾向にあります。入学年度では、年度を遡るにつれて、「親や兄弟に借りる」の割合が高くなるようです。

〈図 36〉 問9 あなたはお金が足りなくなったらどのように対処していますか。次のうちから一つ選んで答えてください。

